

玉手橋

たまたげし

大阪府の藤井寺市と柏原市の境界を流れる石川に、大変ユニークな5径間の吊橋が架かっている。南河内地方を北に向かって流れ、やがて大和川に合流する石川の沿岸地域は、古代からの文化遺産が数多く残されている所である。橋の位置を説明するのに、近鉄南大阪線の道明寺駅から玉手山の遊園地や住宅地を結んでいる橋というより、古代史に関心の深い人なら、応神天皇陵を中心とする古市古墳群ふるいちの中心部と、古墳時代前期の代表的な古墳群である玉手山古墳群とを結ぶ橋、といった方がわかりやすいかも知れない。この辺りは、大阪と奈良を結ぶ東西幹線である竹内街道と、京都と和歌山を結ぶ南北幹線である東高野街道が交差し、大和川の水運の中継地にも近い、交通の結節点として重要な土地柄であった。『万葉集 巻九』にある「河内の大橋」は、この付近の大和川か石川に架けられていたと考えられている。

この橋は現在は、柏原市の管理になっているが、架けたのは近畿日本鉄道(株)の前身のひとつ大阪鉄道(株)である。大阪鉄道の歴史を記した『大鉄全史』(昭和27年)には、「道明寺駅と玉手山遊園地との間を流れる石川には、従来板の仮橋が架けられてあったのであるが、此の仮橋は出水の時度々流失し、駅から遊園地に行く人は遠く迂回せねばならぬ不便に当面した。依って当社は此処に鉄筋コンクリート造り最新式の吊橋を架けることとし、工を起して昭和3年(1928)3月17日その竣工を見ることが出来た。此の橋は『玉手橋』と名付けられたが、これによって沿線人士の玉手山遊園地利用が一層便利になったことは言うまでもない。」と書かれている。なお、玉手山遊園地の開設は、明治41年のことである。

この橋は車を通さない歩道橋である。歩道橋としてはかなり幅が広く、3.3mある。行楽シーズンには遊園地へ行く人が多いため、幅を広くしたのであろう。

吊橋で5径間というのは大変めずらしく、他に例を知らない。構造的には比較的簡単で、補剛桁に相当する部材はない。断面方向にやや斜めに張られた吊材の下端は、背中合わせに組み合わされた溝形鋼に挟まれるように取り付けられている。その上に橋軸方向に3本の溝形鋼が乗せられ、それらが床組を構成している。その上に1スパンごとに鉄筋コンクリート版(厚=15cm)が乗せられ、路面が作られている。

戦後になって柏原市に引き継がれ、今日に至っているが、昭和59年度にケーブルの補強工事が行なわれている。そして現在では、柏原市側の石川沿いには郊外型の工場が立地し、玉手山の周辺には住宅地が広がっており、通勤、通学や買い物など日常的にも橋を利用する人々が増えている。

〔MH〕

竣工年月：昭和3年(1928)3月17日

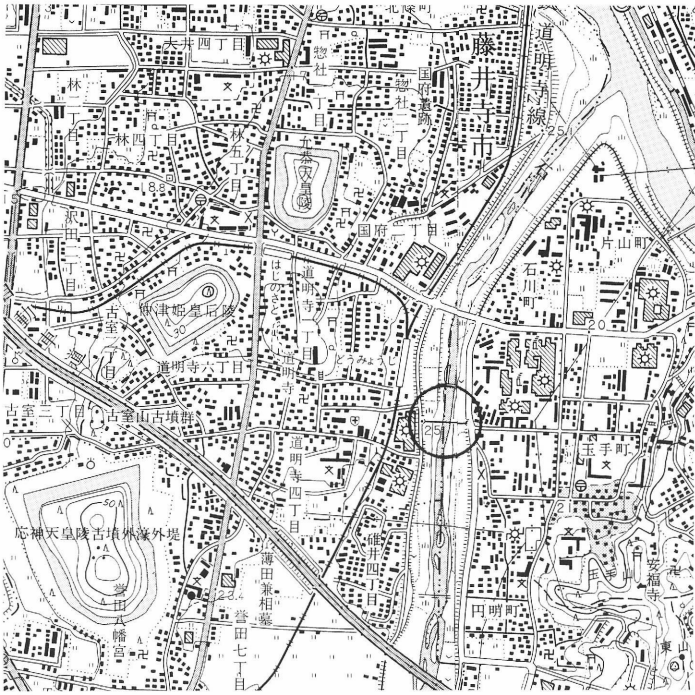
所在地：大阪府藤井寺市 - 柏原市

河川名：石川

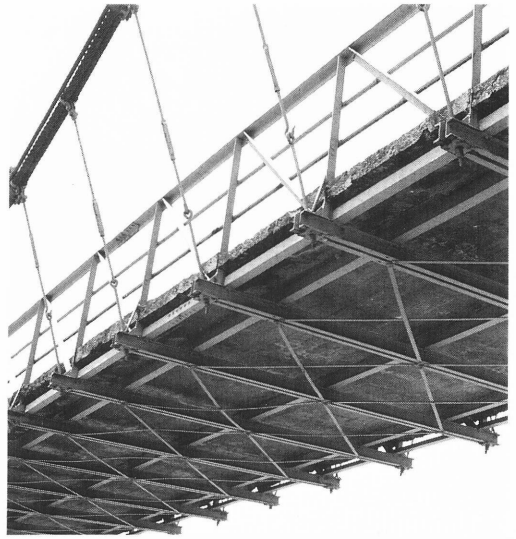
橋長・幅員：151.3×3.3m

径間数・支間長：1×18.05m + 1×38.1m + 1×37.85m + 1×38.45m + 1×18.85m(塔中心間)

形式：5径間吊橋(歩行者用)



(1:25,000 古市, 大和高田)



〈1994年4月, 撮影・共に松村 博〉